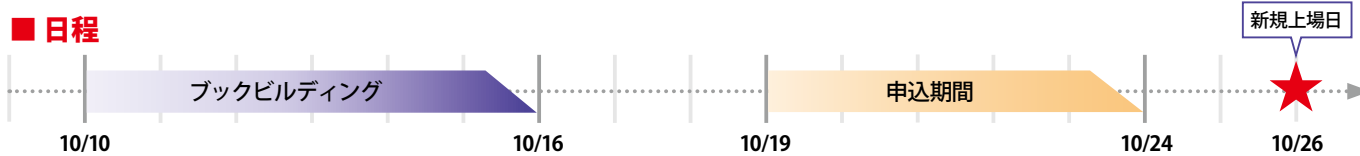


## IPO銘柄 SKIYAKI (3995・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
3995	100株	公募: 16.00万株 売出: 27.26万株 (OA6.48万株)	3,200円~3,400円 (36.8倍)	いちよし証券



## ファンクラブサービスやEコマースサービスをワンストップで提供

### ■ 事業内容

ファンクラブサービスやEコマースサービスをワンストップで提供するソリューションプラットフォーム「SKIYAKI EXTRA」が主力。カルチュア・コンビニエンス・クラブ (CCC) 傘下。ファンクラブ機能としてニュース、プロフィール、ディスコグラフィなどの基本情報に加え、画像や動画、ブログ、チケット先行販売、イベント参加などのサービスが受けられる。Eコマース機能ではシステム開発やデザイン制作、倉庫管理、物流、顧客対応などを含んだフルフィルメントサービスを提供。チケットでは電子チケットの管理システムや専用アプリなどを手掛けている。このほか、オンデマンドグッズサービス「SKIYAKI GOODS」も展開。その他の事業として旅行・ツアー事業の「G TRAVEL」、コンサート・イベント制作の「SKIYAKI OFFLINE」も手掛ける。

### ■ 特徴

「ファンクラブ」「グッズ」「チケット」の3つがアーティスト活動を支える主要な収益源になると捉え、関連機能をワンストップで提供するソリューションプラットフォーム「SKIYAKI EXTRA」を開発した。現在は音楽業界にとどまらず、映画やアニメ、2.5次元ミュージカルなどのジャンルへの提供も行っている。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

18年1月期の連結経常利益は前期比51.9%増の2億円を計画する。取り扱いアーティスト数の順調な増加に支えられて業績が拡大しているが、収益規模はまだ小さい。映画やアニメなど、新たな分野の開拓によって成長力を高めていくシナリオが期待されている。

### ■ 定性分析

CCCの子会社で、アーティスト事務所のアミューズも大株主となっている。IPOで特段人気があるネット株ではあるが、高成長イメージを描きやすいビジネスモデルではない。IPO自体が少ないタイミングでの上場となることから初値買い資金は集まりやすい。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は17億円程度。荷もたれ感が意識される規模ではないものの、軽量感への意識もそれほど強くない。ベンチャーキャピタル保有株がなく、ロックアップ条項も付されていることから、需給面への不安はそこまで大きくない。(小泉健太)

### ■ 類似企業

SKIYAKI (3995・マザーズ)	予想PER36.8倍 (仮条件上限)
エムアップ (3661・東証1部)	予想PER32.5倍
アミューズ (4301・東証1部)	予想PER16.1倍

### ■ 引受証券

いちよし証券、岡三証券、極東証券、マネックス証券、東洋証券、SBI証券、水戸証券、エイチ・エス証券、エース証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
16年1月期(実績)	1,138	—	-107	—	-148	—	-80.8	—
17年1月期(実績)	1,721	51.3	132	黒転	115	黒転	63.2	—
18年1月期(会社予想)	2,241	30.2	200	51.9	174	50.3	92.3	—

※ 16年1月期より連結決算。17年6月に株式分割（1株→20株）を実施。16年1月期および17年1月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
16年1月期	91,750	726	155	200	81.0	20.5	—
17年1月期	91,750	1,240	272	200	144.1	21.3	56.1

※ 16年1月期および17年1月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位（上場前）

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	カルチュア・コンビニエンス・クラブ	966,000	50.21
2	Ararik	230,000	11.95
3	アミューズ	140,000	7.28
4	松嶋 良治	114,000	5.93
5	宮瀬 卓也	110,000	5.72
6	ビーイング	75,000	3.90
7	木村 敏彦	40,000	2.08
8	portas	34,000	1.77
8	豊田 洋輔	34,000	1.77
10	戸崎 勝弘	30,600	1.59

## 経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	宮瀬 卓也
取締役	戸崎 勝弘
取締役	呉島 孟倉
取締役	酒井 真也
取締役	菅沼 博道
取締役(常勤監査等委員)	豊田 洋輔
取締役(監査等委員)	井上 昌治
監査役(監査等委員)	内海 淳

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。